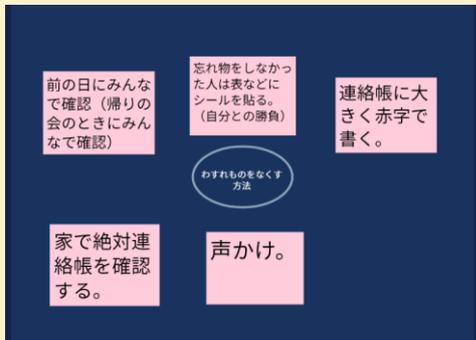


1人1台端末の活用による実践事例 (小・中学校用)

学校名	倉敷市立沙美小学校	実践者名	砂川 祐毅
教科	国語	学年	第3・4学年(複式)
活用内容	ロイロノートのシンキングツールと共有ノートの活用	実践日	令和4年10月14日
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
単元・内容等	グループで意見をまとめよう		

活用の概要(目的・活用場面・使用アプリ名を含む)

- (1) 話し合うテーマに対する自分の意見をもつ。
- ・ロイロノートのシンキングツール「ウェビングマップ」を活用して自分の考えを整理する。
 - ・教員は真ん中のテーマを打ち込んだ後、児童が付箋を自由に取り出し、テーマに対する自分の考えを自由に書く。

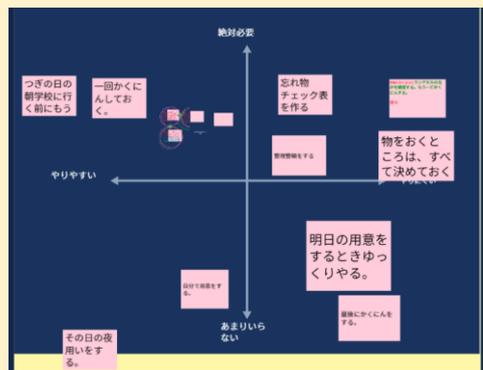


〈個人のウェビングマップ〉



〈全体のウェビングマップ〉

- (2) 共有ノートを活用してグループごとに話し合う。
- ・共有ノートを使って、それぞれの端末でリアルタイムで付箋を動かしたり、書き込んだりして話し合いができるようにする。
 - ・どのシンキングツールを使うかは、グループで話し合って選ぶ。



実践者の手ごたえ

自分たちで必要なシンキングツールを選んだり、話し合いをしながら自由に書き込みをしたりできるなど、話し合いをする上で児童が主体的に活動できてよかった。共有ノートは、十分な事前指導や、ある程度の使用頻度による慣れが必要であると考えます。

児童生徒・保護者等の主な反応や声

(児童の感想)
 「画面上で付箋を動かしながら話し合いができて楽しく活動ができた。」
 「シンキングツールを使うと、友達や自分の意見を整理しやすかった。」